

- 1 確かな学力の向上 2 基本的生活習慣の確立と規範意識の確立 : よくできる B : まあまあできてい
 3 豊かな心の育成 4 健やかな体の育成 C : あまりできていない D : できていない

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	中間	最終	評価	分 析 ・ 改 善 案	学校関係者評価		学校の見解と今後の方向性
								評価	評価	
確かな学力の向上	基礎・基本を大切に、分かる授業を実現する。	言語活動を重視し、読む、書く、伝える、計算する力の定着を図り、自ら学ぶ力を育てる。	辞書を活用し、語彙数を増やすとともに、適切な言葉で表現をする。	64.0	69.4	C	微増ではあるが、保護者の評価が改善されており、家庭内でも児童の学習成果が表れるようになったことを示している。反面、児童自身は努力した分の成果を実感できていない様子である。教員の評価は高いが、保護者・児童との差異を縮めよう。取組を継続していく。	61.1	C	辞書の活用という面で、地道な取組を続けており評価できるが、活用できているかは不明確である。また、適切な言葉で表現することは、生活習慣とも関連するので、項目内容の整理が必要である。
			基本話型を学習し、話す・聞く力を向上させ、授業で活用する。	83.9	83.3	A	保護者評価は、向上している。校内研究での取組の成果がはっきりと見られるが、その分児童の達成目標も高くなり、自分への評価が厳しくなってきた。良い傾向であり、取組の継続とともに更なる授業改善を図っていく。	100.0	A	基本話型が定着し、取組の成果が児童にも表れている。さらに継続し向上させていくことで、各家庭でも意識するようになることを期待する。
			各教科でノートを活用し、わかりやすくまとめたノートを作成する。	71.8	77.8	B	3者の評価とも向上している。教員の指導と児童の努力の成果が表れている。しかし、保護者の方の評価がまだ低いことから、さらにノート活用の指導を継続していく。	66.7	C	児童自身やノートを見る機会が多い保護者でないといわれないことだが、大切なことなので指導の継続を期待する。
			朝学習・家庭学習を毎日行い、各学年の漢字が書ける。	81.9	76.4	B	保護者評価は、向上していることから、家庭学習習慣が定着し、学習内容も定着していることがうかがえる。一方、児童・教員の評価は減少しており、到達目標までいまいとつ感がある。今後指導の徹底を図っていく。	88.9	A	学習習慣はとも定着してきている。児童・教員の評価が下がった原因をはっきりさせ、目標設定を明確にすることも必要であろう。
生活習慣と規範意識	思いやりの心や社会生活の基本的ルールを身につける。	基本的な生活習慣と、適切な言葉遣いの定着を図る。	「です」「ます」など、場に応じた適切な言葉遣いをする。	82.2	78.2	B	1学期同様、教員・児童の評価は高く、校内特に授業中の言葉遣いについてはおおむねできていると言える。一方、保護者評価においては、上昇傾向にあるものの、決して満足できるものとはいえない。場に応じた言葉遣いができるよう指導をおおむね良好である。保護者のA評価が前回と比べ伸びていることから、校外においても公共心をもった行動が取れるようになってきたことがわかる。しかし、児童自身は「できています」と思っているが、教員からの評価はそこまで高くないこととされる。さらに指導していく。	72.2	B	授業中の言葉遣いはおおむねできており、高学年になるほど良くなっていることから、指導の成果がうかがえる。場に応じた言葉の使い分けの向上を期待するとともに、家庭での鮮の面も大きいので、考えていく必要
			公共心をもち、他者に迷惑をかける行動をとる。	75.6	66.7	C	校内での児童の様子は良好である。しかし、他者に迷惑をかける行動や公園等での目に余る行動等も見受けられ、更なる指導を継続願いたい。	55.6	C	校内での公共心をもった行動をさらに定着させるとともに、迷惑行為防止への意識を高める指導を継続していく。これによって、地域での望ましい行動を助長していく。
豊かな心の育成	自他の人格と生命を尊重し互いに助け合い、思いやる心を育てる。	人間的なふれあいの機会や道徳授業の実践を通じ温かい人間関係と豊かな情操	なかよしタイムなどの交流活動を通して、思いやりの心を養う。	86.4	85.2	A	おおむねできているとの評価が得られている。児童の評価が若干厳しくなっているが、活動していく中で様々な課題に気づいてきたと思われる。思いやりの心をはくむために、さらに交流を充実させていく。	94.4	A	交流活動の成果として、思いやりの心が育っていると思える。児童が主体的にかかわる工夫や活動の機会や時間の拡大を図りたい。
			あいさつ運動等を通して、礼儀正しく行動する力を身につける。	73.3	74.7	B	あいさつ運動の期間中だけでなく、日ごろから進んであいさつができるようになってきたことが感じられる。その一方で、まだ十分にできていないと厳しい評価をしている児童が増えている。今後も指導を継続する。	88.9	A	学校での取組の成果が地域のあちこちで出ている。全般的には向上しているが、まだできていない児童も見られることから、形式的にならない指導の継続を望みたい。
健やかな体の育成	丈夫な体とたくましい心を育てる。	基礎体力の向上と健康教育の推進を徹底する。	運動量を確保した体育の授業を通して、体力・運動能力を高める。	78.7	84.7	A	取組は、着実に進んでいて、体力テストの結果も大きく向上している。教員と児童が、体力向上を意識して取組んでいることで、保護者へも成果が伝わってきたと考えられる。引き続き取り組んでいく。	94.4	A	休み時間等活発に動き回る姿からも、体力の向上は着実に前進している。体を動かす機会の減った現代生活では、今後もこの活動の継続が必要である。体力テストの結果の公表も望みたい。
			「早寝・早起き・朝ご飯」の基本的生活習慣を身につける。	74.1	69.2	C	AおよびB評価が多いことから、基本的生活習慣についての理解が深まり、生活を振り返ることへつながったと考えられる。家庭との連携をさらに深め、改善策も含めた指導を継続していく。	61.1	C	家庭の問題だが、全体として課題であることも事実なので、学校からPRされることも必要。授業時数の増加に家庭学習も増加し、早寝というのは子どもらしいのびのびとした時間が取れなくなり難しさがある。
その他の重点	開かれた学校作り 特別支援教育の充実	交指指導・パトロール、読み聞かせ・安全マップ作り、学校公開受付など、地域人材やボランティアは周知徹底できている。保護者評価は、前回と変わらない数値となっており、学校からの周知の難しさがあるものだけに、目に見える形で伝わりやすく、評価が困難である様子がうかがえる。取組の仕組みや状況を見直しを図ることに	学校内外で地域の方やボランティアの方にお世話になっていることが、よく理解されている。校内の児童・教員にはとてもよく浸透している。今後も継続していく。	76.9	82.7	A	学校内外で地域の方やボランティアの方にお世話になっていることが、よく理解されている。校内の児童・教員にはとてもよく浸透している。今後も継続していく。	94.4	A	保護者・地域のボランティアなどが積極的にかかわっていても良い。地域行事などとの交流や、地域の人材活用がもう少しあると良い。
			特別支援学級との連携を図るとともに、不登校やいじめ問題に迅速・的確に取り組む。	73.1	77.3	B	特別支援学級との連携は図られているが、外部からはわからないので、学校からの周知が必要。地道な取組で進めてほしい。	72.2	B	学校として必要なボランティア等、呼びかけもなかなか人員が集まらない実情はあるが、現在の活動を継続していく。周知を図るためあつての保護者・児童アンケートの項目でもあるが、なかなか困難な面がある。今後、各種の便りでも知らせていく。また、評価項目内容を検討する。